

あいさつ



産学官地域連携センター
センター長・副学長 大久保 幸 夫

平成22年度の文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」とそれに続く平成24年度からの「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」が終わったのが、平成27年3月、ちょうど1年前になります。これらの補助金事業から本学は、地域に根差し産官学と連携した教育の重要性を再認識し、今年度4月に「産学官地域連携センター」を設立しました。そこでは、地方自治体や民間企業との連携協定、地方自治体・民間企業・地域及び他大学と連携した教育活動の推進、高大連携の推進、大学地域コンソーシアムでの活動、生涯学習の推進、地域総合研究所との協働などを行っています。一方、プロジェクト室（プロジェクト室は平成27年3月で閉鎖）で行っていたインターンシップ事業は、国内インターンシップが就職キャリアセンターに、海外インターンシップが企画・国際課に移管され、昨年度までの補助金事業を継承する体制が作り上げられました。

期を同じくして、文部科学省から「大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる『ひと』の地方への集積を目的とし」た「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」が公募されました。本学は、鹿児島大学主導のCOC+に参加するとともに、当時鹿児島では鹿児島大学だけが認定されていた「地（知）の拠点大学」の取得もめざし、本学独自の地方創生のための人材育成プログラムを作成しエントリーしました。それらの計画が認められ、本学は鹿児島大学のCOC+参加大学の一つとして活動しつつ、COC大学としても独自のプログラム「フィールドワークをベースにした地域が求める人材育成プログラム」を開始することになった次第です。

平成18年設立された地域創生学科は、地方創生を先取りするような学科でしたが、平成23年3月に経営学科に吸収改組されました。設立当時は、地域創生

という言葉自体馴染みが薄く、そのコンセプトは魅力的ではありましたが、広すぎて高校生には掴みどころがなかったのかもしれませんが、しかし、今や地方創生は国の重要課題に取り上げられ、それなくしては日本がなくなるとまで言われるようになりました。地域創生学科は、その精神と得られた教訓を活かし、就業力育成から続く地方創生推進事業、COC+へとつながり、「地（知）の拠点大学」として生まれ変わったと思っています。本学は、これから今まで以上に本腰を入れて鹿児島県の地方創生に取り組むこととなります。

地域に出て、地域に学び、地域の皆様と協働して地域の課題に取り組む、そして地域に愛着を持ち将来鹿児島で活躍する有意な人材を育成・輩出することを目標にこの事業を続けていきたいと思っております。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます、私のごあいさつとさせていただきます。